

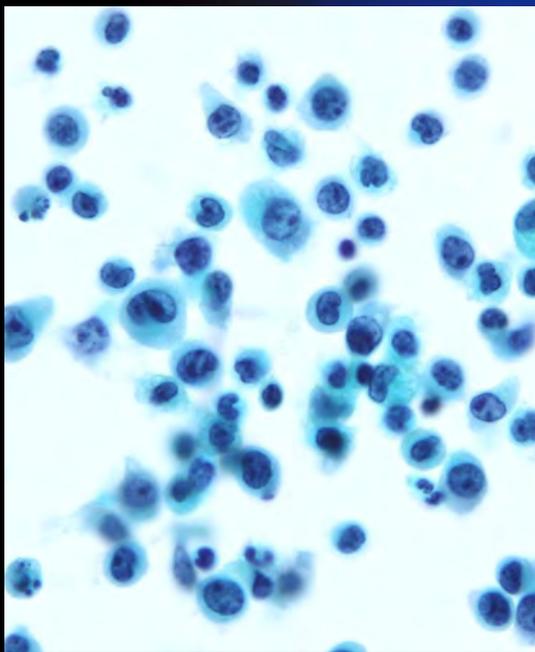
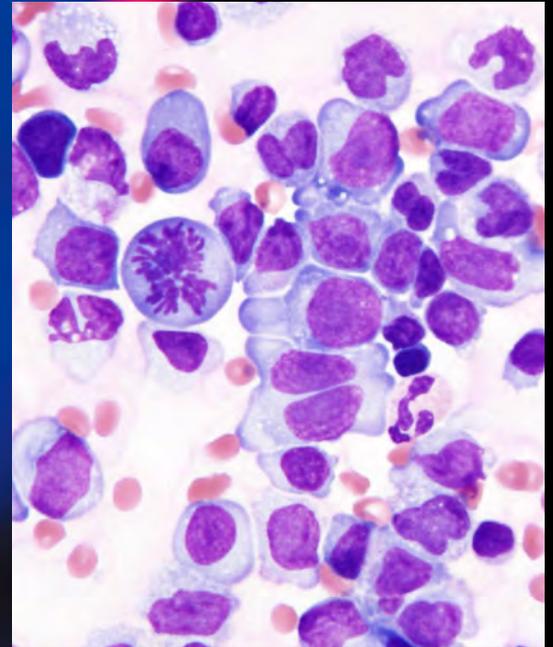
ONLINE ISSN 1882-7233
PRINT ISSN 0387-1193

日臨細胞誌
J.Jpn.Soc.Clin.Cytol.

第55卷 第4号 平成28年7月

日本臨床細胞学会雑誌

THE JOURNAL
OF THE JAPANESE
SOCIETY OF CLINICAL
CYTOLOGY



公益社団法人
日本臨床細胞学会

<http://www.jscc.or.jp/>

Vol.55 No.

July 2016

4

目次

編集委員巻頭言.....寺井 義人

〈原 著〉

- 悪性リンパ腫のギムザ染色における細胞質内空胞の検討
.....横浜南共済病院病理診断科 今井 宏樹・他 (215)
- リンパ節穿刺吸引細胞診における迅速細胞診検査の有用性
.....群馬県立がんセンター病理検査課 土田 秀・他 (224)
- BCL2/BCL6 二重免疫染色による濾胞性リンパ腫 (Grade 1-2) の診断
.....東邦大学医療センター佐倉病院病理部 山崎 利城・他 (231)

〈症 例〉

- Diffuse large B-cell lymphoma, spindle cell variant の1例
.....埼玉医科大学総合医療センター病理部 大澤久美子・他 (239)
- 古典的ホジキンリンパ腫結節硬化型 syncytial variant の1例
.....独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院中央検査部 吉野 龍一・他 (245)
- 左膝関節滑膜に発生したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例
.....新潟県立新発田病院病理検査 佐藤 由美・他 (250)
- 耳下腺内リンパ節に発見された、皮膚病変を伴わないメルケル細胞癌の1例
.....横浜市立大学附属市民総合医療センター病理診断科・病理部 甘利 保子・他 (256)
- 胆嚢癌根治的切除後に発見された前立腺癌の肺の孤在性転移の1例
.....京都桂病院検査科 二宮 慶太・他 (263)
- 気管支肺胞洗浄液細胞診にて診断した肺胞蛋白症4例の細胞学的特徴
.....弘前大学医学部附属病院病理部 小島 啓子・他 (268)
- Papillary glioneuronal tumor の1例
——術中細胞診は診断に有用である——
.....福岡大学医学部病理学・福岡大学病院病理部／病理診断科 小林 広昌・他 (274)

〈短 報〉

- 子宮頸部細胞診におけるコイロサイトーシス亜分類の試み
.....大森赤十字病院検査部 坂本 穆彦・他 (280)

投稿規定.....(282)

編集委員会.....(289)

＊

〈表紙写真〉

大型異型リンパ球様細胞

(左：パパニコロウ染色，右：ギムザ染色) (佐藤由美・他，左：Photo. 2a, 251頁，右：Photo. 3b, 252頁)

CONTENTS

Editorial.....Yoshito Terai

Original Articles

- The cytoplasmic vacuoles in Giemsa stain of malignant lymphoma
Hiroki Imai, et al. (Dept. of Path., Yokohama Minami Kyousai Hosp., Kanagawa)(215)
- Usefulness of combining rapid on-site cytologic evaluation with fine-needle aspiration cytology of the neck lymph nodes
Shigeru Tsuchida, et al. (Dept. of Clin. Lab., Gunma Pref. Cancer Center, Gunma)(224)
- BCL2 and BCL6 double-immunostaining for the diagnosis of Grade 1-2 follicular lymphoma
Toshiki Yamazaki, et al. (Dept. of Path., Toho Univ. Sakura Med. Center, Chiba)(231)

Clinical Articles

- A case report of diffuse large B cell lymphoma, spindle cell variant
Kumiko Osawa, et al. (Dept. of Path., Saitama Med. Center, Saitama Med. Univ., Saitama)(239)
- A case of the syncytial variant of classical Hodgkin lymphoma-nodular sclerosis subtype
Ryuichi Yoshino, et al. (Dept. of Clin. Lab. Services, Kansai Rosai Hosp., Hyogo)(245)
- Methotrexate-associated lymphoproliferative disorders occurring on and localized to the synovial membrane of the left knee joint—A case report—
Yumi Sato, et al. (Dept. of Path., Niigata Pref. Shibata Hosp., Niigata)(250)
- A case of Merkel cell carcinoma of the lymph node in the parotid gland without a skin lesion
Yasuko Amari, et al. (Dept. of Diag. Path., Yokohama City Univ. Med. Center, Kanagawa)(256)
- A case of occult prostate cancer identified by a solitary pulmonary metastasis as the first presentation
Keita Ninomiya, et al. (Dept. of Clin. Lab., Kyoto Katsura Hosp., Kyoto)(263)
- Cytological features of four cases of pulmonary alveolar proteinosis diagnosed by bronchoalveolar lavage fluid cytology
Keiko Kojima, et al. (Dept. of Anatomic Path., Hirosaki Univ. Hosp., Aomori)(268)
- A case of papillary glioneuronal tumor—Intraoperative cytological features are useful for diagnosis—
Hiromasa Kobayashi, et al. (Dept. of Path., Fukuoka Univ. School of Med. and Hosp., Fukuoka)(274)

Brief Note

- A trial for subclassification of koilocytosis on cervical cytology
Atsuhiko Sakamoto, et al. (Dept. of Path. and Lab. Med., Omori Red Cross Hosp., Tokyo)(280)

Notice to contributors.....(282)

Cover Photo

- Large atypical lymphoid cells
(Left : Pap. stain, Right : Giemsa stain) (Yumi Sato, et al., Left : Photo. 2a, p251, Right : Photo. 3b, p252)



編 集 委 員 卷 頭 言

Yoshito Terai

寺 井 義 人

大阪医科大学産婦人科

▶ 夏の星空と細胞診



今年も前半を折り返しましたが、皆さんにとって今年はどうな年でしょうか？ 今年前半の大きな出来事といえば、5年前の悪夢を思い出させるような熊本震災が4月に発生しました。大自然がもたらす天災は、われわれ人類の力ではどうしようもない無力さを改めて感じさせられました。改めまして震災の被害に遭われました方々にお見舞い申し上げます。

最近の話題の1つに5月31日に火星の大接近がありました。皆さんみられたでしょうか？ 地球は太陽の周りを365日で一周、火星は687日かけてゆっくりと一周していることから、2年2ヵ月ごとに地球に近くなるらしいのですが、今年はかなり接近したため夜空に明るくみることができました。見逃した方々は2018年7月31日にさらに接近して大きくみえるそうですので期待して下さい。さて、星空ですが、ふと満天の星空を眺めていますと、どこかに異星人がいて、同じように生活しているのかなと思ったり、ブラックホールや暗黒星雲がどこかに存在するのかなと想像が膨らみ楽しくなってきます。皆様いかがでしょうか？ 私が住んでいる滋賀県は、田舎なので、まだまだ満天の星空を眺めることができます。夜に大学から帰ってきて、田舎の澄んだ空気の下で星空を眺めると、少しばかり疲れを癒してくれます。ところで、細胞診の診断で顕微鏡をのぞいて子宮頸部細胞診診断をしていますと、きれいな背景の中にライトグリーンやピンク色の表層細胞、中層細胞、好中球、リンパ球をはじめさまざまな細胞がまるで宇宙で輝く星のようにみえてくるときがあります。その中には、細菌や真菌、トリコモナス、化生細胞や修復細胞などさまざまな星たちが見えてきます。もちろん、異型細胞や悪性腫瘍細胞を認めた場合には、この宇宙の中に暗黒星雲のような背景と異星人のごとく悪性細胞集団が現れます。われわれの診断しているプレパラートにも小宇宙が存在するかのよう感じます。日々スクリーニングや診断でお疲れの皆様には少し気分転換として、小宇宙から何かをみつける探検の気分になれば、少しは仕事がかどるかもしれません。

さて本誌55巻4号は、3編の原著論文、7編の症例報告と1編の短報の執筆をいただいております。原著論文においては、今井宏樹らの「悪性リンパ腫のギムザ染色における細胞質内空胞の検討」では、パーキットリンパ腫以外の悪性リンパ腫における細胞質内空胞が脂肪空胞か否かを脂肪滴膜と反応する抗Adipophilin抗体を用いて検討を行い、多くの悪



性リンパ腫において脂肪空胞が存在し、Adiphophilin 陽性率が高い場合には悪性リンパ腫を示唆することが可能であると結論づけています。土田 秀らの「リンパ節穿刺吸引細胞診における迅速細胞診検査の有用性」では、リンパ節腫脹症例における穿刺吸引細胞診施行時に迅速細胞診検査を行い、迅速に良悪性の判定を行うことで、リンパ節生検、摘出までの時間が短縮することが可能となり、迅速な治療に結びついたと報告されています。日々の臨床の中で捺印細胞診標本と組織診断を見比べることにより、迅速細胞診診断精度の向上に繋がることにも言及されています。山崎利城らの「BCL2/BCL6 二重免疫染色による濾胞性リンパ腫 (Grade 1-2) の診断」では、頻度が比較的高い濾胞性リンパ腫の細胞診診断に BCL2 および BCL6 の 2 重免疫染色を用いることで鑑別診断が可能であることを検討しています。さらに診断におけるピットホールを 3 点示し、より精度の高い診断ツールとしての可能性を示すたいへん有益な内容になっています。これらの原著論文はいずれも日々の臨床における診断精度向上に有益な内容であると思われます。症例報告としては、二宮慶太らの「胆嚢癌根治的切除後に発見された前立腺癌の肺の孤立性転移の 1 例」、大澤久美子らの「Diffuse large B-cell lymphoma, spindle cell variant の 1 例」、佐藤由美らの「左膝関節滑膜に発生したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例」、甘利保子らの「耳下腺内リンパ節に発見された、皮膚病変を伴わないメンケル細胞癌の 1 例」、吉野龍一らの「古典的ホジキンリンパ腫結節硬化型 syncytial variant の 1 例」、小林広昌らの「Papillary glioneuronal tumor の 1 例——術中細胞診は診断に有用である——」、小島啓子らの「気管支肺胞洗浄液細胞診にて診断した肺胞蛋白症 4 例の細胞学的特徴」、そして短報で坂本穆彦らの「子宮頸部細胞診におけるコイロサイトーシス亜分類の試み」を掲載しております。いずれの症例報告においても、日々の臨床において目にすることが少ない有益な症例提示であり、臨床学的、細胞学的にも詳細に考察されており、われわれの実臨床における有益な知見となりえる内容となっており、たいへん勉強になると思います。

最後に、刻々と変化する毎日、多忙な業務の中では、なかなか余裕を持つことは難しいことではあります。細胞診断は、顕微鏡をずっと眺める集中力のいる仕事でもあります。そのような中で、少しばかり時間をみつけて空を見上げれば、満天の星空が心をいやしてくれるのではないのでしょうか？ もうすぐ七夕、8 月中旬にはペルセウス座流星群が、11 月 14 日には 68 年ぶりの近さでスーパームーンをみることもできるかもしれません。会員の皆様の心の癒しになれば幸いです。

日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。

2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説, 原著, 調査報告, 症例報告, 特集, 短報, 読者の声である。
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので, 他誌に発表されていないものに限る。
- 3) 論文作成に際しては, プライバシー保護の観点も含め, ヘルシンキ宣言 (ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告)ならびに臨床研究に関する倫理指針 (厚生労働省 (平成 15 年 7 月 30 日, 平成 16 年 12 月 28 日全部改正, 平成 20 年 7 月 31 日全部改正) が遵守されていること。

※これらの指針は, 学会誌 1 号に記載。

- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し, 著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ (自身のホームページ, 所属機関のリポジトリなど) においては表題, 所属, 著者名, 内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し, 著者全員の利益相反自己申告書 (様式 2) を添付すること。なお, 書式は <http://www.jacc.or.jp/member.html> からダウンロードし用いる。この様式 2 の内容は論文末尾, 文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は, 同部分に, 「筆者らは, 開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

- 1) 原則として“電子投稿”とする。
- 2) 電子投稿の際には, 以下のサイトからアクセスする。
<https://www.editorialmanager.com/jjacc/>

4. 執筆要項

1) 文章と文体

- (1) 用語は和文または英文とする。
- (2) 平仮名, 常用漢字, 現代仮名づかいを用いる。ただし, 固有名詞や一般に用いられている学術用語はそ

の限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。

- (3) 度量衡単位は cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。
- (4) 外国人名, 適当な和名のない薬品名, 器具および機械名, または疾患名, 学術的表現, 科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。
- (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また, その略語を用いても良いが, はじめに完全な用語を書き, 以下に略語を用いることを明らかにする。

2) 原稿の書き方

原稿はワープロを用い, A4 判縦に横書きし, 1 行 25 字で 20 行を 1 枚におさめる。上下左右に 30 mm 程度の余白をとり, 左揃えとする。文字は 12 ポイント相当以上を用いるのが望ましい。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (英文のみ), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

なお, 写真の解像度は, 雑誌掲載サイズで 300dpi 以上が目安である。

4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ, 内容抄録, 索引用語 (key words), 本文, 利益相反状態の開示, 英文抄録, 文献, 写真, 図, 表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ (1 枚目) には, 当該論文における修正稿回数 (初回, 修正 1 など), 論文の種別 (原著, 症例報告, 短報など), 和文の表題 (50 字以内), 著者名, 所属のほか論文別刷請求先, 著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2 枚目には内容抄録, 索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし, それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著：10名以内
 調査報告：8名以内
 症例報告：8名以内
 短報：5名以内
 総説：1名を原則とする

(3) 内容抄録

短報を除いて500字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的, 方法, 成績, 結論

症例報告：背景, 症例, 結論

総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を5語以内で表示する。原則として、第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌4例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology
 肝細胞癌についての1考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review
 喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな1例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum,
 Metastasis, Case report

(5) 本文および枚数制限

a. 原著・総説・調査報告

本文, 文献を含め10,000字以内 (A4判20頁) とする。

図・表 (写真を含まず) は, 10枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする。

b. 症例報告

本文, 文献を含め6,000字以内 (A4判12頁以内) とする。

図・表 (写真を含まず) は, 5枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする。

c. 短報

出来上がり2頁以内とする。

写真は2枚以内 (組み合わせは各々2枚以内),

図表は計1枚までとする。

写真2枚と図表1枚が入った場合の本文 (I. はじめに〜) と文献は1,500字程度 (A4判3頁)

を目安とする。

(6) 英文抄録

本文とは別紙に、表題の英訳およびローマ字つづりの著者名、所属の英文名、および抄録内容を記す。著者名のあとに、以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する。

医師：M. D. M. D., M. I. A. C. M. D., F. I. A. C.

歯科医師：D. D. S. とし、それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する。

臨床検査技師：M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C.などを記載する。抄録内容は英語で200語以内 (ただし表題、著者名、所属名はのぞく) とし、以下のような小見出しをつけてまとめる。

原著と調査報告：Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告：Background, Case (または Cases), Conclusion

総説：論文の内容に応じて適宜設定

短報：小見出しをつけずに100語以内にまとめる

(7) 文献

a. 主要のものに限る。

原著・特集・調査報告：30編以内

症例報告：15編以内

短報：5編以内

総説：特に編数の制限を定めない

b. 引用順にならべ、本文中に肩付き番号を付す。

c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし、誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会、英文文献はIndex Medicusに準ずる。参考として以下に例を記載する。

【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで6名まで表記し、6名をこえる場合はその後を“・ほか”, “et al”と略記する)。表題 (フルタイトルを記載)。雑誌名 発行年 (西暦) : 巻 : 頁 - 頁。

【単行本の場合】

著者名, 表題, 発行地 : 発行所 : 発行年 (西暦)。なお、引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名, 単行本の表題を記し, 発行年, 頁 - 頁。

他者の著作物の図表を論文中で使用する場合は, 原著者 (あるいは団体) より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で, これを証明

する書類を添付する。

(8) 図・表・写真

- a. 図, 表は英文で作成する. 写真, 図, 表は Photo, 1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ, 簡単な英文のタイトルと説明を付記する.
- b. 本文中には写真, 図, 表の挿入すべき位置を明示する.
- c. 顕微鏡写真には倍率を付する. 顕微鏡写真(細胞像, 組織像)の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが, 写真へのスケールの挿入が好ましい. 顕微鏡写真については撮影時の倍率を表示するか, または写真にスケールを入れる.

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文(原著ないし総説)から構成される. 特集企画者は, 特集全体の表題(和文および英文)および特集の趣旨(前書きに相当)を1,200字以内にまとめる. 原稿の体裁は原著・総説に準じる.

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので, 本誌掲載論文に関する意見, 本学会の運営や活動に関する意見, 臨床細胞学に関する意見を掲載する. ただし, 他に発表されていないものに限る. 投稿は以下の所定の書式・手順による.

- (1) 表題は和文50字以内とする. 表題に相当する英文も添える.

改行して本文を記述する.

末尾に著者名(資格も付記), 所属施設名, 同住所の和文および英文を各々別行に記す. 著者は1名を原則とする. 文献は文末に含めることができるが, 表・写真・図を用いることはできない. これらの全てを1,000字以内(A4判2頁以内)にまとめる.

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する. なお, 投稿内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には, 本委員会より該当者に執筆を依頼し, 併列して編集することがある.

7) 英文投稿の場合

A4 縦にダブルスペースで10頁以内とする.

和文抄録を付し, 図・表その他は和文の場合に準ずる.

5. 別 刷

別刷を希望するときは, 校正時に部数を明記して申し込む.

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し, その結果を筆頭著者に通知する. 審査にあたっては査読制をとる. 原稿の組体裁, 割付は編集委員会に一任する.

7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う. 出版社から送付された校正は, 必ず3日以内に返送する. 校正担当者が筆頭著者以外の時は, 校正の責任者と送り先を投稿時に明記する. 校正では間違いを訂正する程度とし, 原稿にない加筆や訂正は行えない.

8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし, 超過頁の掲載料は著者負担とする. 白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが, その他の図版費(図の製版代), 英文校正料, 別刷代は著者負担とする. また, 邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし, 英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する.

9. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある.

(平成4年6月一部改定)	(平成22年9月一部改定)
(平成6年6月一部改定)	(平成23年3月一部改定)
(平成9年6月一部改定)	(平成23年8月一部改定)
(平成11年6月一部改定)	(平成24年4月一部改定)
(平成21年5月一部改定)	(平成26年5月一部改定)
(平成21年6月一部改定)	(平成26年11月一部改定)
(平成21年11月一部改定)	(平成26年12月一部改定)
(平成22年4月一部改定)	(平成27年3月一部改定)

添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は www.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい. 従来は国内での査読を行っていましたが, 直接投稿していただくことになりました.

添付2 以下の2項目は毎年1号に掲載する.

- ・ヘルシンキ宣言
- ・臨床研究に関する倫理指針

平成15年7月30日

(平成16年12月28日全部改正)

(平成20年7月31日全部改正)

NOTICE TO CONTRIBUTORS

1. Authorial responsibility :

All authors of this journal including coauthors must be members of the Japanese Society of Clinical Cytology.

2. Categories of articles published :

1) The categories of articles published in this journal are *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports*, *special articles*, *brief notes*, and *reader's voices*.

2) The submitted articles should contribute to the advancement of clinical cytology and must be submitted exclusively to this journal.

3) Authors must observe the Declaration of Helsinki (recommendations for physicians conducting biomedical studies in humans) and the Ethics Guidelines for Clinical Research (Ministry of Health, Labour and Welfare, July 30, 2003, Revised on December 28, 2004 and July 31, 2008), including privacy protection.

* These guidelines appear in the first issue of the journal.

4) Copyright for articles published in this journal will be transferred to the Japanese Society of Clinical Cytology, and the authors must agree that the articles will be published electronically by the Society. The authors are permitted to post the title, affiliations, authors' names and the abstract of their article on a personal website or an institutional repository, after publication.

5) All authors will be required to complete a conflict of interest disclosure form as part of the initial manuscript submission process. The corresponding author is responsible for obtaining completed forms from all authors of the manuscript. The form can be downloaded from (<http://www.jbcc.or.jp/member.html>) The statement has to be listed at the end of the text.

3. Submission style :

1) As a general rule, manuscripts should be submitted electronically.

2) For initial submission, please access the site below.
(<https://www.editorialmanager.com/jbcc/>)

4. Instructions for manuscripts :

1) Text and writing style

- (1) Manuscript is to be written in Japanese or English.
- (2) Hiragana, daily use kanji and contemporary Japanese syllabic writing should be used, except for proper nouns and generally used technical terms. English manuscripts should be prepared essentially in the same manner as Japanese manuscripts.
- (3) Weights and measures are expressed in CGS units (cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg, etc.).
- (4) Names of non-Japanese individuals, drugs, instruments / machines, or diseases that have no proper Japanese terms, academic expressions and scientific terms are to be written in the original language. Upper case letters should be used only for proper nouns and the first letter of German nouns.
- (5) Medical terms should be in accordance with the "Saibou-shinn yougo kaisetsu-syu (Handbook of cytological terminology)" edited by the Japanese Society of Clinical Cytology. Abbreviations of medical terms may be used, but the terms should be spelled out in full at their first occurrence in the text and the use of abbreviations is to be mentioned.

2) Manuscript preparation

Manuscripts are to be prepared using a word processor on vertical A4-size paper, with 25 characters per line and 20 lines per page. The top, bottom and side margins should be approximately 30 mm, and paragraphs left-justified. Twelve point or larger font size is preferable.

3) Electronic files

The following electronic file formats are recommended. Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (English only), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

A minimum resolution of 300 dpi size is required for photographs for publication.

4) Style of *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports* and *brief notes*.

- (1) Manuscript format

The parts of the manuscript are to be presented in the following order : Title page, abstract, key words, text, conflict of interest disclosure, English abstract, references, photographs, figures and tables. The pages of the manuscript should be numbered consecutively. The number of revisions (initial submission, first revision, etc.), the category of paper (*original article, case report, brief note, etc.*), Japanese title (not exceeding 50 characters), name (s) of author (s), authors' affiliations, address for reprint requests, and agreement of copyright transfer and early publication must be clearly written on the title page (the first page).

The abstract and key words are to be written on the second page. There should be a separation between the abstract and the start of the text.

(2) Authors

Authors will be limited to persons directly involved in the research. The number of authors is to be as follows, and other persons involved should be mentioned in the *Acknowledgments* section at the end of the paper.

Original articles : no more than 10

Investigation reports : no more than 8

Case reports : no more than 8

Brief notes : no more than 5

Review articles : just one author, as a general rule

(3) Abstract

The text of the abstract should not exceed 500 characters, except for *brief notes*, and the headings should be comprised of the following.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles and *special articles* : headings are to be selected according to content.

(4) Key words

No more than 5 key words indicative of the content of the paper are to be supplied. As a general rule, the first term usually indicates the subject, the second term, the method, the third term and beyond, the content.

[Titles followed by examples of appropriate key words in parentheses]

Examples of Key words :

– Gallbladder aspiration cytology — Cytological and histological findings in four cases of gallbladder cancer — (Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology)

– A review of hepatocellular carcinoma (Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review)

– A rare case of ovarian clear cell adenocarcinoma cells detected in sputum (Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report)

(5) Text and page limitations

a. *Original articles, review articles, and investigation reports* :

The manuscript should not exceed 10,000 characters (20 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 10 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

b. *Case reports* :

The manuscript should not exceed 6,000 characters (12 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 5 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

c. *Brief notes* :

A brief note should not exceed two printed pages.

No more than two photographs (or combinations of no more than two photographs) and one figure or table can be included.

If two pictures and one figure or table are included, text (I. Introduction ...) and references should be approximately 1,500 characters (3 pages of A4 size).

(6) English abstract

An English translation of the title, authors' names in Roman letters, authors' affiliations in English, and English abstract should be given on a page separate from the text. The authors' degrees/qualifications are to be written after their names using the following abbreviations.

For physicians : MD ; MD, MIAC ; MD, FIAC.

For dentists : DDS, with other degrees or qualifications abbreviated the same as for physicians.

For clinical laboratory technologists : MT ; CT ; JSC ; CT, IAC ; CT, CMIAC ; CT, CFIAC.

The text of the abstract should not exceed 200 words (exclusive of the title, authors' names and affiliations), and the following headings are to be used.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles : headings should be selected according to their content.

Brief notes : abstracts for brief notes should consist of no more than 100 words and no headings are to be used.

(7) References

- a. Only major references are to be listed.

Original articles, special articles, and investigation reports : no more than 30 titles

Case reports : no more than 15 titles

Brief notes : no more than 5 titles

Review articles : no limit

- b. References are to be listed in the order in which they appear in the text, and indicated by superscript numbers in the text.

- c. The references should be listed in the Vancouver style, and the journal abbreviations in Japanese and English references according to the Japan Medical Abstracts Society and Index Medicus, respectively. Examples are shown below.

For journals :

Name (s) of the author (s) (full names for Japanese names ; for European names, surnames of the first 6 authors spelled out, with initials for the rest of the name, and other authors' names abbreviated "*et al*"). Title (full title should be given). Name of the journal (space) Year of publication ; Volume : Page numbers.

For books :

Name (s) of the author (s). Title. Place of publication : Name of the publisher ; Year of

publication (If a citation is just one part of an independent book, the title should be followed by the name of the editor, the title of the book, and the year of publication). Page numbers.

If figures and tables from another author's work are used in the article, permission for publication, including electronic publication, must be obtained from the original author (or organization), and the documents certifying this permission must be attached.

(8) Figures, tables and photographs

- a. Figure and table titles are to be written in English. Photographs, figures and tables are to be numbered thus : Photo. 1, Fig. 1, Table 1, etc. Provide simple titles and explanations in English.

- b. Clearly state where the photographs, figures and tables should be positioned in the text.

- c. Magnifications are to be stated for micrographs. The magnification of the objective lens at the time the photograph was taken will be used as the magnification for photomicrographs (photographs of cells or tissues). Authors are recommended to use scale bars in the photograph. For electron micrographs, the magnification at which the photograph was taken should be stated or scales included in the photograph.

5) Style of *special articles*

Special articles are composed of several papers (*original articles* or *reviews*) on a single topic. The planners of *special articles* need to prepare the title of the whole special issue (in Japanese and English) and a synopsis (equivalent to an introduction) of no more than 1,200 characters. The style of *special articles* should be the same as for *original articles* and *review articles*.

6) *Reader's voices*

Submissions which do not fit the above-described categories for scientific papers, including opinions on papers already published in the journal, the operation and activities of the Japanese Society and Clinical Cytology, are also published, but only if they have not been presented elsewhere. Submissions should be in accordance with the following prescribed form and procedure.

- (1) The title is not to exceed 50 characters, and a corre-

sponding English title should be provided.

The text should be started on a new line.

At the end of the text, the name (s) of author (s) (with the authors' qualifications), institutional affiliations and addresses should be written in Japanese and English on separate lines. As a general rule, there should be just one author. References can be added at the end, but no tables, pictures and figures. All of the above should be no more than 1,000 characters (no more than 2 pages of A4 size).

- (2) The editorial board will decide whether a submission will be published. If the Committee finds it necessary to also publish the opinion of a person referred to in the manuscript or a third party in regard to the content of the paper submitted, the Committee will request that the person concerned write it, and the two will be published together.

7) English manuscripts

English manuscripts are to be written double-spaced on A4 paper, and should not exceed 10 pages.

A Japanese abstract should be provided, and figures, tables, etc. are to be prepared in the same manner as the Japanese manuscript.

5. Reprints :

When reprints are desired, the author should state the number of copies to be ordered when returning the first galley proof.

6. Review of the manuscript :

Whether a manuscript submitted for publication will be accepted is determined by a review conducted by the editorial board, and the first author will be notified of the results. The referee system is used to conduct these reviews. The editorial board will be responsible for the layout and format used in printing the manuscript.

7. Proofreading :

The publisher will send the first galley proof to the first author, who should check and return it within three days. When the person responsible for proofreading is someone other than the first author, the person's name and address must be clearly stated when the manuscript is submitted.

Only errors can be corrected on proofs. Nothing that is not already in the manuscript can be added or corrected.

8. Publishing fee :

Authors will be charged for space in excess of 4 printed pages. There will be no charge for the cost of printing black-and-white and color photographs. However, authors will be charged for plate making for figures other than photographs, English proofreading and reprints. In addition, half the charges for English proofreading and reprints of Japanese articles will be waived, and the publishing fees, including plate making charges, for English articles will be waived.

9. Revision of these rules :

The rules for submitting manuscripts may change.

(Partial revision June 1992)

(Partial revision June 1994)

(Partial revision June 1997)

(Partial revision June 1999)

(Partial revision June 2009)

(Partial revision November 2009)

(Partial revision April 2010)

(Partial revision September 2010)

(Partial revision March 2011)

(Partial revision April 2012)

(Partial revision May 2014)

(Partial revision November 2014)

(Partial revision December 2014)

(Partial revision March 2015)

Appendix 1. Submission of manuscripts to *Acta Cytologica*

Please go the new *Acta Cytologica* website (www.karger.com/acy) and read guidelines for manuscript submission. Submission of manuscripts to the Japanese Editorial Office for preparatory review has been abolished.

Appendix 2. The following 2 items will appear in the first issue of every year.

- Declaration of Helsinki
- Ethics Guidelines for Clinical Research
July 30, 2003
(Revised on December 28, 2004)
(Revised on July 31, 2008)

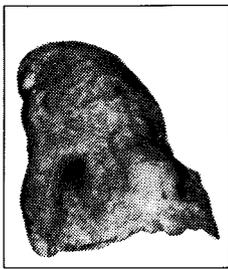
日本臨床細胞学会編集委員会 (平成27年~28年)

委員長:竹島信宏					
担当理事:井上健	河原 栄	小西 登			
委員:岡田真也	岡本三四郎	河内茂人	九島巳樹	清水 健	芹澤昭彦
	寺井義人	富永英一郎	星 利良	的田真紀	三上芳喜
	室谷哲弥	矢納研二			
幹事:松浦基樹					
査読委員:秋葉 純	池田純一郎	板持広明	一迫 玲	伊藤以知郎	伊東英樹
	伊藤 仁	今村好章	岩成 治	岡部英俊	小野瀬亮
	加来恒壽	片岡史夫	亀山香織	河合俊明	河原明彦
	喜多恒和	北村隆司	金城 満	九島巳樹	工藤浩史
	黒住昌史	小松京子	齋藤俊章	笹川寿之	笹島ゆう子
	佐藤之俊	柴 光年	清水恵子	白石泰三	杉山裕子
	鈴木雅子	鈴木正人	関根浄治	高澤 豊	楯 真一
	田中浩彦	田中尚武	田中良太	谷山清己	田丸淳一
	辻村 亨	土屋真一	土岐尚之	内藤善哉	中村直哉
	中山富雄	長尾俊孝	則松良明	羽賀博典	服部 学
	濱田哲夫	林 透	広岡保明	廣川満良	藤井多久磨
	藤原 潔	細根 勝	前田一郎	増田しのぶ	丸田淳子
	三浦弘之	三橋 暁	光谷俊幸	南口早智子	森下由紀雄
	森園英智	森谷卓也	安田政実	山口 倫	横山良仁
	吉見直己	米山剛一	若狭研一	若狭朋子	鷺谷清忠

(50音順)

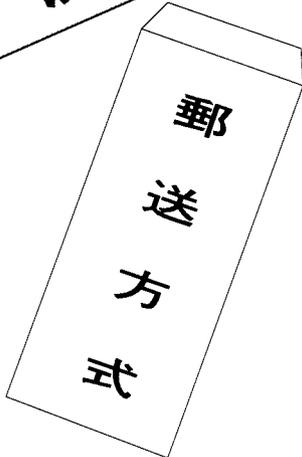


左側：長期間喫煙者の肺



右側：非喫煙者の肺

肺がん予防・早期発見のために たんのげんさ 喀痰細胞診のすすめ



【特長】

- 1 簡便な「ポスト投函」による郵送で、高い受診回収率が期待できます。
- 2 携帯便利な「ボックス型」で、「何時」でも「何処」でも「採痰」が可能です。
- 3 採痰後、「迅速かつ効率的」な「直接塗抹法」で高い処理能力を有し、検診に適しています。
- 4 保存液は、「細胞の形態保存」「染色性」に十分な配慮がされています。
- 5 検鏡下で、「生痰と同様な所見」が得られ、検索が容易です。
- 6 蓄痰法で、特に肺門部癌の「陽性率80%」以上の検出率です。

本品は、東京医科大学早田 義博名誉教授、加藤 治文名誉教授のご指導で作製しました。50%エタノール、2%カーボックス、0.5%チモール、生食水を保存液とした「郵送方式を特長」とし、肺がんの早期発見を目的とした喀痰細胞診専用容器です。

※容器発注及び受検方法などの詳細は、
下記へお問い合わせ下さい。

製造発売元



メディカルケアセンター

〒340-0017 埼玉県草加市吉町5丁目11番8号 ☎048-927-3628

推薦 東京医科大学外科学教室